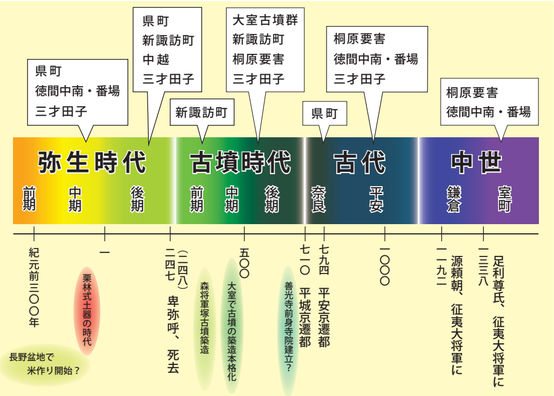


発掘調査が終わるまで

猛暑や酷寒と闘いながらの発掘作業が終わると、ホッと一息です。でも、調査はこれで終わりではありません。遺跡から持ち帰った遺物を整理し、検討し、その成果を報告書にまとめるという仕事、「整理作業」が始まります。報告書は、私たちのよりよい生活と引き換えに壊されてしまう遺跡の身代わりです。それができあがってはじめて、発掘調査は完了するのです。

遺物についた土を落としきれいに洗う

破片をつなぎ合わせて復元する

復元した土器を細かく観察する

調査・研究の結果を報告書にまとめる

長野市教育委員会文化財課　長野市埋蔵文化財センター
〒381-2212　長野県長野市小島田町 1414　長野市立博物館内
TEL: 026-284-0004　FAX: 026-284-0106　E-mail: maibun@city.nagano.lg.jp

県町遺跡（後町小学校地点）

新諏訪町遺跡

中越遺跡

第17回 長野市埋蔵文化財センター発掘調査速報展

発掘された長野 2015

徳間中南・番場遺跡

三才田子遺跡

中越遺跡

2016 2.16（火）▶ 2.26（金）　**古里公民館**（1階ロビー）
3.1（火）▶ 3.21（月）　**もんぜんぷら座**（2階ミニギャラリー）
3.23（水）▶ 4.8（金）　**吉田公民館**（ノルテながの2階）
※各施設閉館日を除く

発掘された長野 2015

平成27年度、長野市埋蔵文化財センターは、後町小学校跡地（県町遺跡）をはじめとして、市内7地点で発掘調査を行いました。また、史跡大室古墳群でも、史跡整備の一環で発掘調査を行いました。今回、『発掘された長野2015』と題して、今年度の調査成果をいち早く展示・紹介いたします。

火事の痕跡がある竪穴住居の発掘。県町遺跡（後町小学校地点）にて。

■ 平成27年度に発掘調査した遺跡

遺跡	起因事業	調査面積（期間）	検出遺構	時代
県町遺跡（後町小学校地点）	後町小学校跡地活用整備事業	2,132㎡（9.11～1.15）	竪穴住居跡18、掘立柱建物跡2、溝跡6、土坑、小穴	弥生中期・後期、奈良～平安
県町遺跡（マンション建設地点）	民間開発事業	600㎡（1.17～2月中旬）	竪穴住居跡7、土坑、小穴（1月末現在）	奈良～平安
新諏訪町遺跡	民間開発事業	2,750㎡（12.14～5月中旬）	竪穴住居跡1、溝跡4、土坑3、小穴（1月末現在）	弥生後期、古墳前期・後期
中越遺跡	宅地造成	1,055㎡（5.11～6.24）	竪穴住居跡3、溝跡1、土坑5、小穴、河川跡	弥生後期、古墳後期、平安
桐原要害	宅地造成	603㎡（4.6～6.2）	竪穴住居跡16、溝跡8、井戸跡1、土坑30、小穴	古墳後期、平安、中世
徳間中南・番場遺跡	宅地造成	5,637.7㎡（5.17～10.7）	竪穴住居跡4、溝跡33、井戸跡1、土坑45、小穴113	弥生中期・後期、奈良、平安、中世
三才田子遺跡	道路改良事業	1,400㎡（7.13～10.14）	竪穴住居跡13、土坑、河川跡	弥生中期・後期、古墳後期、平安

■ 史跡大室古墳群整備事業に伴う平成27年度の発掘調査

古墳名	時期	調査目的	調査内容	調査期間
154号墳	古墳後期	古墳の墳丘残存状況の確認	トレンチ1箇所	7.2～7.22
167号墳	古墳後期		トレンチ2箇所	
176号墳	古墳中期		トレンチ2箇所	
―	―	古墳など遺構の有無の確認	トレンチ7箇所	6.22～6.25

長野遺跡群

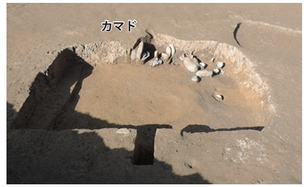
県町遺跡 後町小学校地点

弥生時代中期・後期、そして奈良時代末～平安時代初めの住居跡などが見つかりました。過去の調査から、調査地周辺には寺院や役所など公的な施設があったと推測していました。今回、廂（ひさし）の付いた掘立柱建物跡や稜椀（りょうわん）など、その可能性が高まる発見がありました。

■ 火事の痕跡が見つかった竪穴住居跡

弥生時代中期の住居跡で、真っ黒に焼けた柱や壁の木材が出土しました（写真右）。壺や壁際に置いたままの状態（下左）や、複数の土器がまとまった状態（下右）も観察できます。何かの骨や穀物、赤色顔料が入った鉢や小壺も出土し、当時の生活の様子が浮かび上がってきました。

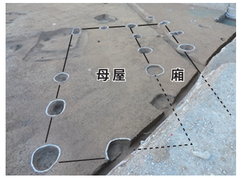
■ 奈良・平安時代の竪穴住居跡



今回検出した竪穴住居跡には、一般的な正方形だけでなく、カマドに対し横長の形態のものがありました。

カマドは、石を用いて構築しています。中からは多くの土器が出土しました。

■ 廂の付いた掘立柱建物跡と稜椀　― 付近に寺院や役所があったのか？ ―



柱間５間×２間の母屋に北東側に廂が付く構造の掘立柱建物跡。集落内の有力者の住居か、公的な施設の跡の可能性があります。

竪穴住居から出土した須恵器の稜椀。高台は壊れています。椀の外側に水平に張り出しているのが特徴です。寺院や役所の跡で出土する傾向がある特殊な品です。

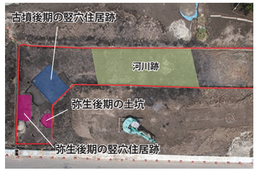
速報 県町遺跡（マンション建設地点）の調査

後町小学校跡地の北西約 150ｍの地点でも発掘調査を実施しています。１月末現在、奈良時代から平安時代にかけての住居跡が７軒見つかっています。付近一帯に住居跡や建物が広がっていたと推測できます。

浅川扇状地遺跡群

中越遺跡

弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代の集落の遺跡です。古墳時代後期の住居跡では石皿と土器がかたまって出土し、弥生時代の土坑では多くの土器と石が一緒に出土しました（写真下）。住居跡と同じ時代の土器が多く出土し、集落の中を流れていたことがわかる河川の跡も見つかっています。



浅川扇状地遺跡群

桐原要害

桐原神社の東隣に位置する中世居館跡として著名な遺跡です。今回の調査でも、井戸跡（写真上）や溝跡など、中世の居館を構成する施設の遺構が見つかりました。さらに、古墳時代後期や平安時代の竪穴住居跡（写真下）も見つかり、中世以前から人々が生活していたことが明らかになりました。

浅川扇状地遺跡群

徳間中南・番場遺跡

弥生時代中期を中心とする遺跡です。今回の調査地は集落の端の部分であったようで、検出遺構のほとんどを住居跡（写真上）ではなく、溝跡や土坑が占めています。その中には、土器が多量に出土した溝跡や、木製品が出土した井戸跡（写真下）など、注目すべきものがありました。

三才遺跡群

三才田子遺跡

弥生時代中期・後期、古墳時代後期、平安時代の住居跡を中心とした遺構と、土器や石鏃が見つかりました。住居跡で最も多かったのは、これまで三才地域では見つかっていなかった弥生時代のものです（写真上）。弥生時代の集落の展開を知るための、新たな手がかりを得ることができました。